

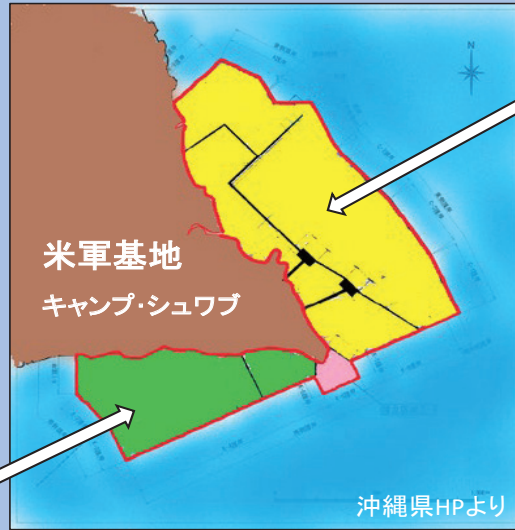
辺野古・大浦湾を埋め立てるな！

今、どうなっているの？

■ 沖縄県名護市の米軍用の辺野古新基地建設工事では、辺野古側の埋め立てはほぼ終了し、大浦湾側では2024年7月に杭打ちが始まりました。しかし、埋立土砂は投入されていません。基地建設工事の中止は、まだ間に合います！

辺野古側（面積37ha）
〈ほぼ完了〉

- 2018年に埋立開始、2023年で計画土砂量（約319万 m^3 ）の99.7%を投入。
- これは埋立全体に必要な土砂量の約16%にすぎない。



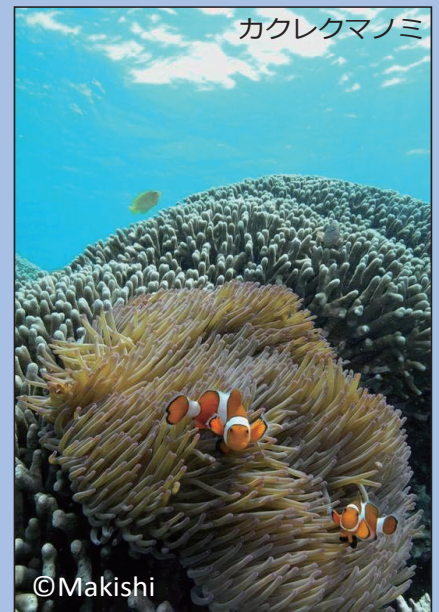
大浦湾側（面積113ha）
〈まだ埋めていない！〉

- 大浦湾側は、辺野古側の面積の3倍以上あり、またかなり深いため、埋立土砂量は5倍以上が必要（約1,707万 m^3 ）。
- 2024年7月に護岸建設用の鋼管杭打ち開始。埋立完了は早くても12年後になる。

➡ **埋立土砂量はまだ16%、工事は中止できます！**

大浦湾には、どんな生き物がいるの？

■ 辺野古・大浦湾には、サンゴ礁、海草藻場、岩礁、砂浜、干潟、マングローブなど、多様性に富んだ自然環境があります。そのため、それぞれの環境に適応したいろいろな種類の生物が棲んでいます。たいへん生物多様性が豊かな場所です。記録されている海域生物は5,334種で、262種の絶滅のおそれのある生物が含まれます。深い海底では新種や未記録の生物が発見されています。



■ 辺野古・大浦湾の海域は、厳正保護、保護・保全に必要な海岸（沖縄県）、重要湿地および生物多様性の観点から重要度の高い海域（環境省）、国際NGOミッション・ブルーが認定したホープスポット（希望の海）など、世界的に見ても生物多様性保護のために重要な海域です。 ➡ **生物多様性の宝庫です！**

軟弱地盤の埋立は、だいじょうぶなの？

■大浦湾には、海面下90mあたりにマヨネーズ状の軟弱地盤があります。軍事基地を造るため、71,000本もの砂杭を海底に打ち込んで固める地盤改良工法が使われます。しかし、技術的には70mまでの砂杭しか打ち込むことができません。改良地盤の下には軟弱地盤が残ります。そのため、工事後に凸凹に地盤が沈下し、また、地震で崩壊する可能性があるとして指摘されています。



©Chiba



©Henokoblue



乱暴なサンゴ移植

©Makishi

■これまで、大浦湾～嘉陽、古宇利島周辺で見られていた3頭のジュゴン（ジュゴン）は1頭が死に、2頭が行方不明です。辺野古の海草藻場は埋め立てられました。保全のためのサンゴ移植（84,000個を予定）は方法が乱暴で、すでに半分の移植サンゴが死んでいるとみられます。建設工事は、環境と生物に悪影響をおよぼしています。

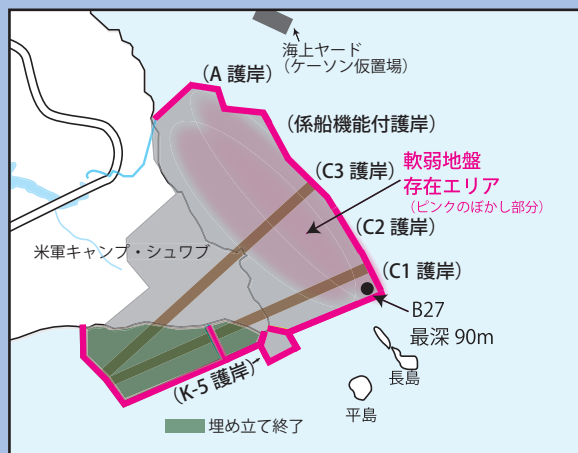
→ **埋立事業は失敗します！**

建設費用は、いくらかかるの？

■辺野古新基地建設計画は、今から28年前の1996年、日米両政府の合意（SACO合意）によって決まりました。数回の計画変更のあと、総工費は、2014年に3500億円、2019年には9300億円と2.7倍にふくれ上がりました。

■その後、2023年末までに57%の5319億円が、すでに使われています。工事期間は今後最短でも12年あるので、工事費は一体いくら掛かるのでしょうか？

■沖縄県の試算（2019年）では、2兆5500億円に達しています。とんでもない金額の税金が投入されるのです。その結果できるのは、地盤沈下がひどくて使いものにならない軍事基地です。全く無駄な事業です。



辺野古新基地建設は今すぐ中止を！ →

総工費は天井知らず、税金の無駄遣いはやめよう！

取扱団体

辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会
辺野古への基地建設を許さない実行委員会
平和を実現するキリスト者ネット
辺野古・高江を守ろう！NGOネットワーク

